

世代間共生のゆくえ

上野千鶴子氏
「おひとりさまの老後」

阿部 真大氏
「搾取される若者たち-バイク便ライダーは見た!」

「若者の居場所・中高年の居場所 —私たちはわかりあえるのか—」

どの時代にも世代と世代のずれはありましたが、今日のそれはより複雑になり、文化差ともいえる本質的なちがいが生じているようにもみえます。そしてそれが互いへの誤解や葛藤を引き起こし、職場で、近隣で、そして家庭でも、世代間のコミュニケーションのあり方が問われる状況がうまれているといえるでしょう。

このフォーラムでは、各世代について発言をされてきたお二人の講師から、それぞれがどのような価値をまとい、どのように社会における居場所を見いだそうとしているのかなどについて語っていただき、互いへの理解を深め、単純な批判や排除に走らない共生のあり方をさぐってみたいと考えています。

講師 上野千鶴子 (うえの ちづこ) 氏
東京大学名誉教授・立命館大学大学院先端総合学術研究科特別招聘教授
著書:『おひとりさまの老後』『ケアの社会学』『女ざらい』ほか

阿部 真大 (あべ まさひろ) 氏
甲南大学准教授
著書:『居場所の社会学』『搾取される若者たち-バイク便ライダーは見た!』ほか

日時 2012年11月17日(土) 13:30~15:40 講演 13:30~15:00/対談 15:10~15:40

場所 瀬田キャンパス 8号館101教室 **定員** 300名 (先着順)

申込 福祉フォーラムホームページの申込フォームからお申し込みください。
<http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/welfare/index.html>

申込問合せ

龍谷大学福祉フォーラム事務局(REC滋賀)

〒520-2194 大津市大江町横谷1-5

TEL.077-543-7744 FAX.077-543-7771 Email.r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

受付時間: 祝日及び大学が定める休日を除く月~金の9:00~16:00

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局(REC滋賀内)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

TEL: 077-543-7744 FAX: 077-543-7771

E-mail: r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp

ホームページ: <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>



電車 JR琵琶湖線「瀬田」駅下車
帝産バス「龍谷大学」行き(約8分)
バス 名神高速「瀬田西IC」(大阪方面から)
「瀬田東IC」(名古屋方面から)より
文化ゾーン方向へ車で約5分 【駐車場有】
お車



福祉フォーラム通信

Vol.15

発行日: 2012年9月1日
発行元: 龍谷大学福祉フォーラム

第10回共生塾

障害者虐待防止法が大切にしたいこと

～障がいのある人やその家族と地域がつながる第一歩へ～

【日時】 平成24年7月7日(土) 13:30~16:00

【会場】 本学瀬田キャンパス3号館107教室

【講師】 越野 緑氏(やまびこ総合支援センター 相談員) 久保厚子氏(滋賀県手をつなぐ育成会理事長、知的障がい相談員)

藤宮祐憲氏(東近江あんしんネットワーク 事務局) 竹下育男氏(せせらぎ法律事務所 弁護士)

コーディネーター: 猪飼立子氏(滋賀県社会福祉協議会) 山田 容(本学社会学部准教授)

本年度10月の障害者虐待防止法の施行を前に「障害者虐待防止法が大切にしたいこと～障がいのある人やその家族と地域がつながる第一歩へ～」と題して第10回共生塾を開催しました。法が制定された理念や意義、その内容を知っていただき、障がいのある人が虐待されない社会づくりについて考えるとともに、障がいのある人への虐待を防止するため、同時に虐待されている人への適切な対応や支援のため、関わる人達が日々の暮らしの中でどのようにつながり、支え合うことができるのかを考えました。当日は、定員を超える65名の参加があり、この法と問題への関心の高さを実感することとなりました。

法の解説とコメントに竹下育男 弁護士、パネラーには、越野緑氏、久保厚子氏、藤宮祐憲氏をお迎えし、それぞれの実践の現状とあるべき方向性について、大変わかりやすく具体的なお話をいただきました。この共生塾を期に、法の執行だけに留まらない障害を持つ人達との共生の具体化が進めばと願っています。



参加いただいた方から

毎回共生塾を楽しみにしています。勉強に、心を洗われに、とにかく充実した時間を過ごさせてもらっています。

全体的な感想では、大変盛りだくさんの内容であったため、駆け足になりもったいないな、と感じました。竹下先生による制度の概要説明では、改めて防止法の全体像と背景を押さえることができました。欲を言えば、別冊の「虐待事例と分析」についても、もっとお話が聞いてみたかったです。パネルディスカッションでは、第一線で活躍されている皆さんの生のお話に、とても刺激を受けました。特に「虐待に関わる支援者もとても傷つく」という越野さんの言葉が印象的でした。現場では言いにくい場面が多い中で、多くの人が抱えている気持ちなんだろうな、と胸に迫るものがありました。

障害者虐待防止法は、障がい者虐待が個人の問題ではなく、個人に現れた社会問題であると認識されるためにはなくてはならない法律であると思います。また、これまでの「縁」や「つながり」、そして一地域・一施設・一個人に丸投げせず行政の責任において対応する、現場は当事者の援助に関わる者がチームで行うというシステムづくりにも欠かせないと思うのです。(ただ、山田先生がおっしゃったように、「専門性の低いまま一般の行政職員が大きな責任を負わされている」という現状に対処したものでなければ、実際には機能しないのでしょうか。)個人の生活に現れた問題を社会問題として捉えるという視点は、障害福祉分野に限ってはおりませんが、障害福祉分野は特に、当事者の方々とそのご家族の運動に多くの実績があります。

障害者虐待防止法には、障害福祉から社会福祉全体、そこからさらに社会保障・労働政策・経済政策までフィードバックし、「1人1人が住み慣れた地域でその人らしく暮らしていく」という当たり前の未来を実現させるための力としても期待したいと思います。

(NPO法人 あさがお 千賀なぎさ様)

第9回専門セミナー

子どもの放課後を豊かなものにするために —大人(専門職)—は何をすればいいのか

学童期の子どもたちと向き合う専門職の学びと交流の場、を目指すこのシリーズも5年目を迎えました。今回は、「子どもの放課後を豊かなものにするために—大人(専門職)—は何をすればよいか」という共通テーマのもと、全4回を実施しています。最終回は9/30に開催されますが、以下、終了した3回分について報告します。

第1講：「現代社会の中の子ども」

【日時】平成24年5月13日(日) 10:00~12:40

【会場】本学瀬田キャンパスRECホール

【講師】工藤 保則(本学社会学部教授)、他

「社会的存在としての子ども」について、子ども社会学の視点から講義を受けました。当日の内容については、参加者からの声の紹介という形で報告します。



第1講に参加いただいた方から

「みなさんいつもの立場と逆で、今日は生徒さんですね。ひとつ、出席をとってみましょうか」と工藤先生が出席をとることから第9回専門セミナーの第1講『現代社会の中の子ども』が始まりました。ひとりひとりが元気よく「ハイ」と返事をし、先生からいただいた「キャラメル」をほおぼると、教室全体が和やかな雰囲気になりました。「こんなセミナーは初めて(笑)」と思いました。

セミナーの最初に先生が、「うまくレクチャーができたときは、聴いている方の頭の上に『!マーク』が立つのがわかります」と言われたので、「自分はどこで立つのかなあ」と興味を持って聴きました。

「社会化」についていろいろ学ぶにつれ、知らないうちに獲得してきた社会規範や普通にしてきた集団遊びが子どもにとっていかに大切か、あらためて強く感じました。そして、子どもだけが変化し、発達し、成長するのではなく、子どもの影響を受けて、放課後児童クラブの指導員としての私もまた、変化し、発達し、成長しているのだと気づかされました。まさに「!マーク」でした。

日頃はどうしても子どもに対して一方的になりがちなのですが、「大人としての(指導員としての)私もどうなっているのか、と振り返る気持ちを大切にしていきたい」と思わせていただいたセミナーでした。

(NPO法人 芹川 中野啓子様)

参加者の感想

- 子どもにとって興味があることをどんどん体験させてあげたいと思いました。安全面を考えすぎてしまう辺りで色々考えさせられました。
- 温かい大人に見守られ異年齢で育ち合う居心地の良い空間の中で、本当の意味での「生きる力」が育っている子ども達の姿を見せて頂きました。

第2講：「子どもにとって遊びとは」

【日時】平成24年6月3日(日) 10:00~12:40

【会場】本学瀬田キャンパスRECホール

【講師】森末 哲朗氏(元六甲学童保育どんぐりクラブ指導員/「放課後泥棒」(雲母書房)の作者)

六甲学童保育どんぐりクラブ指導員として26年間実践された森末氏を迎え、自由な放課後が子どもたちの育ちに果たす役割について、受講者と共に考えました。NHK教育テレビで放映されたどんぐりクラブの映像と講師の話とをリンクさせる形式で講義が進み、日々の生活や、夏のキャンプ、月に一度の農作業を通じて、高学年の子どもから低学年の子どもへと、どんぐりクラブの「文化」が引き継がれていく様子から、子どもの群れのもつ力について学びました。

後半の質疑の時間では、子どもの力を引き出す大人の関わりについて、滋賀県の学童保育や小学校の現場での受講者からの実践紹介もありました。神戸から講師の応援に駆けつけられたどんぐりクラブの保護者の方々からも、しんどいところもあるけれど、保護者としてクラブの活動を支えていくことの魅力についてもうかがうことができました。

塾やおけいこ事、放課後に様々な制約が多くなっている今だからこそ、子どもたちが主体となって取り組むことを大人が保障していくことの大切さについて、改めて考えさせられたひと時でした。



第3講：「発達からみた「遊び」」

【日時】平成24年7月1日(日) 10:00~12:40

【会場】本学瀬田キャンパスRECホール

【講師】中村 隆一氏(立命館大学応用人間科学研究科教授/大津市立やまびこ支援センター相談課発達相談員)

中村氏の軽快な口調に引き込まれながら、子どもの発達と遊びの関わりについて、幅広い視点から講義を通じて学ぶことができました。

古代オリエントのおもちゃ、江戸時代の寺子屋でのいたすら、現代のスウェーデンの親子遊び等、それぞれの時代や地域の中で大人がどのように子どもとその遊びをとらえて応援してきたか、また、子どもの側で、いつどのように



「遊び」が成立するのかという発達の基盤について学び、遊びが子どもにとってもつ意味を考えました。「遊ぶにはスキルだけでなく、遊び心が必要。遊び心を育てるにはことばの力が必要。そして、遊びに必要な関係性やことばでのやり取りを導き、ことばの力を育てるのは大人の役割。」というメッセージは深遠で、エピソードを全てうかがう前に時間が来てしまい、残りは最終回の講師に託される形となりました。

当日は激しい雨の日でしたが、熱心な受講者と共に、遊びを育てる上での大人の役割について思いをさせ、学びの時を共有することができました。

- 遊び=行動だと思っていましたが、活動や遊び心が大きく関わっている事を知り、今までと違う視点で関われるような気がしました。
- 改めて子どもの過ごす“放課後”の意味や大切さを思いました。